

令和8年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、話や文章で適切に使うことができるようにする。 (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 64% [学力調査やテストの結果から] [知識・技能に関すること] ・文字の書き順を間違えたり、書字が雑になってしまったりすることがある。 ・語句や語彙が少ない。 ・読書の量や読み聞かせの機会が少ない。 ・前年度に学習した配当漢字について、読むことはできているが書くことに課題がある。定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。 [話すこと・聞くこと] ・関わる大人が限定的で、コミュニケーションの機会も少なく、伝え合う力が不足している。 ・話の大事なことを落とさずに聞くことに課題がある。	[知識・技能に関すること] ・鉛筆の持ち方や筆圧、姿勢など、書字の際の基礎基本を丁寧に指導し、身に付けられるようにする。指導講師と連携し、書字に関して課題がある児童には個別に対応し、家庭にも伝える。 ・言葉の宝箱を作成したり集めた語彙を掲示したりして、授業の中で語彙を増やす活動を行う。辞典も活用し、基礎・基本を大切にしていく。読書タイムの充実を目指し、詩の朗読や俳句や短歌に親しみ、言語感覚を養うとともに、言葉を尊重する態度を養う。 ・漢字の知識が定着していないため、漢字の小テストを実施したり未習得の漢字が定着したりできるよう、繰り返しの練習を行う。 [話すこと・聞くこと] ・ペアや4人組で話したり聞いたりする経験を積めるようにする。 ・思考ツールを用いることや対話型のスピーチを行うことで、自分の気持ちや考えを的確に表現したり、相手の話を最後まで聞いて相手の伝えたいことを捉えたりすることができるようにする。 ・児童とともにロールプレイングを行う。日頃から焦点を絞って話し合う機会を設け協働する経験を積み重ねる。

令和8年度 授業改善推進プラン

		[書くこと] ・記述の問題に課題がある。文章を組み立てる技能が定着していない。 ・伝えたいことや要旨を的確に伝えたり、捉えたりすることに課題がある。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を結び付けて書くことに課題がある。 ・語彙が少なく表現に偏りが見られる。 ・問いに対して指定された題意や字数を的確に捉えて書くことに課題がある。 「読むこと」 ・情景についての理解が低いため、物語への感想がいつも同じような言葉で叙述に基づいて理由を表現することができず、自分の思いのみで答えてしまう場合がある。 ・人物像や物語の全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。	[書くこと] ・はじめ・中・終わりで何を伝えたいのかが分かるような構成メモやワークシートを活用する。 ・文章の構成や書き方、内容などについて、例を提示しながら重点的に指導したり日頃から自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。 ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどをメモや短冊にまとめられるようにし、児童が文章の構成を考えた上で書けるようにする。 ・教師のモデル文を効果的に活用する。 [読むこと] ・場面を丁寧に読み込み、叙述に基づいて理由を説明する習慣を身に付けられるようにする。 ・学習した内容に関連した本を紹介したり読み聞かせをしたりして本と日常的に関わる機会を設けることで読書をする態度を養うようにする。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	(1)社会生活について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握したりして、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する。	[知識・技能に関すること] ・方角など、地図の読み方が定着していない。 ・写真等の資料を分析し、情報をまとめることに課題がある。 ・本や ICT を活用し、情報収集をする力が身に付いてきている。一方で、たくさんの情報の中から課題解決に必要な情報を的確に判断し、選ぶことに課題が見られている。 ・日本や世界の国土についての	[知識・技能に関すること] ・地図に関する知識・技能が低いので、地図を扱う学習を取り入れたり、ワークテストに取り組ませたり、学習を展開していく。 ・資料を大きく黒板に掲示したり、ノートに資料を貼って手元で比較できるようにしたりして、児童が読み取りやすい工夫をする。 ・穴埋めプリントを用意したり、ノートとタブレットを選べるようにしたり、児童の実態に合わせて学習活

令和8年度 授業改善推進プラン

る力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3)社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。	知識の習得に課題が見られる。 [思考・判断・表現に関すること] ・複数の資料から必要な情報を読み取ったり関連付けて把握したりすることに課題が見られる。 ・気づきや考えを文章として表現し、伝えることに課題が見られる。 ・社会的事象への見方・考え方を多角的に捉えたり、自分たちの身近な社会的事象と関連付けて考えたりしたことを、表現することが難しい児童が見られる。 ・調べた内容について特徴を整理し、目的に応じてまとめることや、自分の考えを文章で表現することに課題がある。 [態度に関すること] ・社会的事象について、自分事として捉えられず、問題解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲が低い。 ・政治について消極的に捉えていることがあり、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする意欲が低い児童がいる。	動ができるようにする。 ・学習問題や本時のめあてを丁寧に確認し、学習内容を十分に理解させた上で展開する。本や ICT を活用した調べる活動では、必要な情報を判断できるようにする。 [思考・判断・表現に関すること] ・資料を分析したり、情報を整理したり、他者と自分の考えの相違に気付かせたりするなど応用力を高める指導を行う。 ・見やすく情報が伝わりやすい資料を精選する。資料から気付いたことと考えたことを混合しないように示し、友だちの意見からも考えられるようにする。 ・まとめる活動では、単元によって個人、小集団など、様々な形式をとる。他者が調べたり、まとめたりした内容を知ること、考え方や表現の良さに気付かせ、思考力を高めさせる。 [態度に関すること] ・それぞれの特色や取り組み、伝統や文化などがどのように自分の生活に関わっているかについて調べ、気づきを増やせるようにする。 ・学習内容に関連する時事問題を取り上げたり、学習内容を児童の身近な話題に置き換えたりする。 ・意欲向上を目指し、資料の提示や疑似体験などを有効に利用する。 ・導入場面では、実物や資料などを身近な物から選び、提示方法を工夫することで児童から問いや疑問が出されるように工夫する。
--	--	--

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算 数	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。 (2) 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 67% [学力調査やテストの結果から] ・計算や図形、測定の各領域では、全国平均・東京都平均を上回る結果となり、既習事項が着実に身に付いていることがうかがえる。一方で、日常の事象を数理的に捉え、筋道を立てて考察する力には課題が見られる。 ・基礎的・基本的な学力の定着が見られる一方、記述式や短答式の問題では正答率が伸び悩み、問題文を基に考えを整理し、根拠を明確にして説明する力に課題が見られる。 [単元ごとの特徴] ・「比」や「分数」などの割合に関する領域や、「データの活用」の問題は、その他の単元と比較して平均点が低い傾向にあった。図や数直線、表を用いて数量関係を視覚化し、立式の根拠を説明する活動を充実させる。また、データの活用では、資料を読み取り、根拠を示して考えを表現する場面を継続的に設定していく。 [授業の様子から] ・問題文の内容を読み取り、適切に立式することに課題が見られる。 ・他者の考え方や多様な解法を比較・検討したり、学習した内容を次の学習に生かそうとしたりする態度に課題が見られる。	[導入場面における工夫] ・絵や具体物を活用し、問題場面を視覚的に捉えながら、式を立てられるようにする。 ・学習内容に関連した具体物や動画、挿絵を効果的に活用し、算数に苦手意識のある児童も意欲的に学習へ取り組めるよう工夫する。 ・児童が身近な生活場面と関連付けて考えられるよう、問題をすぐに提示するのではなく、日常生活の出来事を導入として課題を設定する。 [展開場面における工夫] ・課題解決の場面では、一人一つ、または班に一つ具体物を用意し、実際に手で触れながら数量や図形の関係を考えられるようにする。 ・自力解決の場面では、問題解決までの過程に着目できるよう言葉掛けを行い、図や言葉を用いて自分の考えをノートに表現できるよう指導する。 [終末場面における工夫] ・学習のまとめでは、学習内容を振り返るだけでなく、「学んだことを今後どのような場面で生かせるか」を考えさせる言葉掛けを行うとともに、その考えをノートに記述する機会を設ける。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	(1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。 (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	[学力調査・テストの結果から] ・「子葉」「昆虫」「成虫」などの用語について習熟が十分ではない児童がいる。 ・A「物質・エネルギー」B「生命・地球」領域ともに、児童による理解度に差が見られる。 ・自然事象について、身の回りのエネルギーに関わる現象については理解しているものの、他の現象についての理解度が低い。 [観察・実験・授業の様子から] ・問題を見出す力はまだ不十分と言える。 ・根拠を基に予想をしたり、結果を基に考察したりすることに課題が見られる。 ・観察や実験について用具を用いて正しい手順で行うことはできるが、観察したものや実験結果から考察したことを言語化することに課題が見られる。 ・実験が終わった際に継続して世話を続けることやその後どうなっているのかと観察することに課題が見られる。	[知識・技能に関すること] ・理科的用語の理解を深めるために、生物や植物を継続的に観察したり栽培したりする活動を取り入れ、実物と理科的用語を関連付けて理解できるようにする。 ・観察や実験の技能を高めるために、実験器具を扱う機会を十分に確保するとともに、課題に応じた実験方法を児童自身が考え、計画できる場を設定する。 [思考・判断・表現に関すること] ・日常生活や地域の自然現象など、理科の見方・考え方につながる身近な話題を取り上げ、学習内容との関連を意識できるようにする。 ・児童の既習事項や生活経験、写真や動画などの視覚的資料を活用し、児童自らが問題を見いだせるよう導入を工夫する。 ・児童同士が意見を交流しながら疑問を共有し、主体的に問題を設定できる授業を展開する。 ・考察場面では視点を明確に示し、実験結果を根拠として問題に対する自分の考えを表現できるようにする。 ・実験結果から気付いたことや考えたことを表現する時間を十分に確保するとともに、発達段階に応じた話型の提示や対話活動を通して、疑問の解決につなげる。 [態度に関すること] ・可能な限り実物を活用したり、児童が自分たちの体験を想起したりする機会を設けることで、学習内容を身近に感じられる授業を行う。 ・実験の実施が難しい単元において

令和8年度 授業改善推進プラン

			は、ICT を効果的に活用し、児童の理解を深められるようにする。 ・季節ごとに学校の自然を観察するなど、日頃から自然と触れ合う機会を増やし、自然への関心や気付きを高める。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	(1)具体的な活動や体験を通して、感じたり気付いたり、わかったり、できるようになったりする。 (2)生活の中で気付いたことやできるようになったことなどを使って、繰り返し考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする力を養う。 (3)様々な活動を通して感じたことや気付いたことを生かして、より良い生活を営もうとする態度を養う。	[生活経験の差から] ・身の回りに自然環境が少ないため、経験が不足している児童が一定数いる。 ・家庭の多様化により家庭環境や生活経験に差がある。 [児童の様子から] ・よい気付きがあるのにもかかわらず、表現の方法に戸惑う児童がいる。 ・気付いたことや学んだことを次の単元や他の教科につなげることが難しいと感じる児童がいる。	[環境に関すること] ・屋上庭園やビオトープ観察など身近な場所で、年間を通して自然とのかかわる活動を行うことで、四季の変化を体全体で感じ取ることができるようになる。 ・校内の物的・人的資源を活用、開発し、人や自然とのかかわる場面を増やしていく。 [授業を行う上で留意すること] ・保幼小連携の連絡を密にして、本校の児童がどのような生活経験や体験をしてきたのかを的確に把握し実態をつかむ。 ・活動では、思考する→試す→工夫することを繰り返し行えるような場と時間の確保をしていく。 ・多様な表現方法を教え、準備したり、表現する時間を設けたりする。 ・生活科での気付きを他の学習でも生かせるように、児童の発言、記録カード、作品、写真等で記録したり、掲示したり、タブレットを活用したりして、振り返りを継続する。また、授業者が意図的に学習内容と気付きをつなげる。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	[表現に関すること] ・歌唱表現について、自分の歌声を大切にしながら楽しく歌う姿が育っているが、必要以上に大きな声で主張の強い歌い方をしてしまう傾向があることに課題が見られる。 ・器楽表現について、範奏を聴いてリズムを模奏する活動に意欲的であるが、リズムが不確かであり、拍の感覚を身に付けていくことに課題が見られる。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習について、運指の正確さに課題のある児童がいる。技能差が大きい。 ・歌唱・器楽分野において、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しているが、表現するために必要な技能については個人差が大きい。また、主体的に思いや意図をもって表現を工夫することに課題が見られる。 [鑑賞に関すること] ・鑑賞分野においては、聴く視点に着目して音楽を味わって聴くことができるが、感じ取ったことを言語化することに課題が見られる。	[表現に関すること] ・歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気づき、友だちと互いの歌声を聴き合って調和のとれた声を合わせて歌うことができるようにしていく。 ・リズムについての学習では、言葉や身の回りの音に含まれているリズム・パターンを扱ったり、音楽に合わせて手拍子をしたり歩いたりすることができるような、一定の間隔で刻まれる音楽を扱ったりして拍の間隔を体感し、身に付けていく。 ・鍵盤ハーモニカの学習では、木琴、鉄琴などの鍵盤打楽器を取り入れながら様々な楽器に触れる機会を多く設け、旋律を演奏するよさや面白さを感じさせながら技能を身に付けていく。 ・学習を進めるにあたり、発声の仕方、立ち方、リコーダーの指づかいの確認をすることで基本的な技能を身に付けていく。 [鑑賞に関すること] ・友だちと互いに音を聴き合うことで、表したい音楽表現をするために、どのような思いをもって音楽的工夫が必要かを発問して学習していくようにする。 ・鑑賞で気付いた音楽のよさを適切に言語化していくように言葉を共有していく。

令和8年度 授業改善推進プラン

		[その他] ・歌唱表現から器楽表現、鑑賞活動から器楽表現など、音楽との関わり方を工夫することで、音楽を親しむ態度が養われている。	[その他] ・学習する題材の中で、曲想と音楽の構造や歌唱表現、器楽表現、鑑賞活動のつながりを考えて指導していく。
--	--	--	--

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。	[知識・技能に関すること] ・材料や用具の正しい使い方の理解が十分でない場合がある。 ・ものをつくったり、表したりする経験や技能に差がある。 ・制作に対する意欲が高い児童が多くいる一方で、技能的に細かな作業に課題があったり、見通しをもって作品制作ができなかったりする児童がみられる。 [思考・判断・表現に関すること] ・自分なりの思いをもって表現することが苦手な児童が少数おり、教員の提示したものや、教科書の作品、友だちの作品を真似してしまう児童がいる。 ・表したいことに合わせて創造的に発想や構想できる児童と、そうでない児童がいる。 ・自分の見方・感じ方を深めることができる児童とできない児童の差が大きい。	[知識・技能に関すること] ・教員が用具の正しい使い方や作品の作り方などを例示したり、用具や材料の使い方の動画を視聴したりすることで技能や理解の定着を図る。 ・子どもたちが多様な材料や用具を使えるよう、年間計画を立てる。また、導入の際には試作品や参考作品を多数見られるようにして、児童の表現の可能性を広げるようにする。 ・机間指導の時間を十分に取り、児童の技能向上に努める。題材の全体計画を提示し、見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。 [思考・判断・表現に関すること] ・参考作品を提示する際には、多様な作品資料を用意し、様々な表現ができることを児童に示す。 ・活動中に児童の作品を見合う場を設定し、自分の作品の表し方に工夫を取り入れたり、見方や感じ方を深めたりして、創造的に表現活動ができるように促す。 ・ワークシートを取り入れるなどして、自分の思いや考えを整理できる工夫をする。 ・鑑賞等で、友だちの作品の良さについて互いに伝え合う対話的な活動の場を取り入れる。

令和8年度 授業改善推進プラン

		[態度に関すること] ・持ち物が揃わない児童がいる。 ・片付けがうまくできない児童が多い。	[態度に関すること] ・図工バッグに入れておくものをポスターにして各クラスに掲示するとともに、担任の先生方に毎授業の持ち物を事前にお知らせし、児童に伝えていただく。 ・用具や材料の片付け方を都度確認するとともに、児童それぞれに役割を与え、片付けにも積極的に参加できるよう促す。
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	(1)家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 (3)家庭生活を大切に育む、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。	[実習の様子から] ・調理や裁縫の学習において、家庭での経験の有無によって知識・技能の定着に個人差が見られる。 ・実習時に友だちと協力しながら整理整頓や後片付けまで円滑に進めることに難しさを感じている児童がいる。 [家庭生活との関連] ・洗濯や調理などの日常的な家事経験が不足しているため、授業で学んだことと自身の生活を関連付けて深く考えることが難しい児童が見受けられる。 ・家族、衣食住、消費行動や生活環境に関する基本的な知識・理解は得られているものの、それらを実際の日常生活の中で応用・活用することに課題が残る。 ・日常の暮らしの中から自力で問題点を見出し、「どう改善すれば解決できるか」という具体的なアイデアや解決策の構築に至らない児童が見られる。	[知識・技能に関すること] ・調理・裁縫の実習で初めて扱う器具がある際は、タブレット等の ICT 機器を活用した視覚的な解説を取り入れ、安全かつスムーズに活動へ参加できるようにする。あわせて、道具の適正な扱い方や片付けの手順をその都度再確認し、確実な定着を図る。 [思考・判断・表現に関すること] ・「生活をよりよくするための視点や考え方」を意識させるため、自分の家庭環境ではどのような実践が可能かを捉えさせ、毎時間の振り返りを丁寧に行う。 [態度に関すること] ・ミシンや刃物など安全配慮が不可欠な実習(裁縫・調理等)では、ペアでの相互フォロー体制を徹底する。単に個人の作品制作や作業を完了させることにとどめず、互いに配慮し合いながら安全に実習を進める姿勢を育む。 ・調理学習では各自の役割分担を明確化し、全員が調理に関わる機会を十分に確保することで、個々の実践力を高めていく。

令和8年度 授業改善推進プラン

体育	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	(1)その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	[知識・技能に関すること] ・運動や遊びの経験に差があり、技能差が大きい。 ・年齢や学年相応の技能が身に付いていない児童がいる。	[知識・技能に関すること] ・各種の運動の特性を味わわせるために、運動の行い方を工夫したり、規則を工夫したりする。 ・基本的な動きを獲得できるような補助運動の場を充実させる。
	(2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	[思考・判断・表現に関すること] ・見通しをもって学習に取り組んだり、自身の取り組みに対して振り返ったりすることが難しい児童がいる。	[思考・判断・表現に関すること] ・めあてに対する振り返りを運動後に毎回行うことで、児童が自己の学びを振り返ったり見通しをもったりできるようにする。
	(3)運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	[態度に関すること] ・運動に意欲的な傾向があるが、苦手意識があるために前向きに運動に取り組めない児童もいる。 ・できることや得意なことはやりたいが、苦手なことには取り組みたくないとする児童もいる。 ・安全に対する見通しが甘く、無理のある運動の行い方をしてしまい怪我をしてしまう児童もいる。	[態度に関すること] ・運動に意欲的でない児童や運動が苦手な児童には、個別に声をかけたり、配慮したりすることで、運動に進んで取り組むことができるようにする。 ・児童が場や活動を選ぶことができるよう、教材や用具の準備を十分に行うようにする。 ・教師が安全に留意した場を準備することを第一として上で、児童にもどのような運動をしたら危ないか確認したり見通しをもたせたりした上で運動に取り組むようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	(1)日本語と外国語との違いを理解し、外国語の音声や文字、文構造や基本的な表現に慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けられるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるようにする。 (3)異文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語でコミュニケーションをとることができるようにする。	[聞くことについて] ・1年生から国際の授業を行っているため、英語を「聞く」力が高い。 [話すことについて] ・自信をもって英語を発話できない児童がいる。 ・学習した単語や表現が積み上げできておらず、学習した表現を使って、やり取りをすることに困難を示す児童もいる。 ・「話す(発表)」のように、人前で話すとなるとうまく話せない児童が多い。 ・「話す(やりとり)」活動において、コミュニケーションの目的意識を感じられず、会話が続かない児童がいる。(1～2往復程度)	[知識・技能に関すること] ・歌やゲーム、友だちと関わる活動などを多く取り入れることで、楽しみながら本時のキーワードを習得できるようにする。 ・Teacher's Talk を多く取り入れることで、児童が英語を聞くことに慣れる時間を増やす。 ・単語やキーセンテンスの反復練習の時間は十分に設ける。 [思考・判断・表現に関すること] ・やりとりの間に中間指導を丁寧に行う。よいコミュニケーションを価値づけたり、言い方のわからないものを確かめたりすることで、会話が活発に行われるようにする。 ・clear voice (明瞭な発音)、listen carefully(よく聞くこと)、eye contact(目線)、smile(笑顔)の4つのコミュニケーションポイントを常に提示し、児童に意識付けを行う。 ・リフレクションカードを活用し、自分の学びや友だちとの関わりを継続して、振り返られるようにする。 [態度に関すること] ・児童にとって身近で興味深い単元目標や単元計画を設定し、授業を実施する。 ・児童がすすんで「伝えたい、話したい、聞きたい」と思えるような目的・場面・状況を明確にした言語活動を行う。また、最終ゴールまでの見通しをもてるようにし、ゴールを意識しながら毎時間のめあてを立てられるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	(1)よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	[自己・他者理解] ・他者の心情を理解しようとしたり、自己の言動を客観的に振り返ったりすることが難しい。 [実生活との関連] ・道徳で扱う教材と実生活を結びつけて考えられる児童が少ない。 ・学校生活や友だちとの関わり合いの仕方などについて一定の理解ができている児童が多くいる。その反面、自立した生活態度をもっているとは言い難く、継続的な指導を必要とする児童も多くいる。 ・道徳的価値について、頭では大切だ、守らなければならないと理解していることが多い。しかし、実生活につなげたり自分事として捉えたりすることが課題である。 [語彙・表現に関すること] ・複雑な気持ちを表現する語彙が少ない児童が多い。	[自己・他者理解に関すること] ・友だちを通して自分とは異なる考えに触れ、自分の考えや言動を振り返ることで、自己を見つめ、相手の気持ちを考えながら行動しようとする態度を育てる。 [資料提示の工夫] ・意欲を向上させるため、導入部分で事前アンケートを活用したり、ICT 機器を活用して資料提示を行ったりするなどの工夫をする。 [発問の工夫] ・他者の立場に立って多面的・多角的に考えられるよう発問を工夫したり、自分の言動を客観的に振り返り、自己を見つめられるようにしたりする。 [活動内容の工夫] ・物事を多面的・多角的に考えさせるために、「何だろう」「なぜだろう」と問うたり、話し合い活動を取り入れたりして多様な感じ方や考え方に接することができるようにする。 ・気持ちを表す語彙を獲得したり、自分の考えを深めたりするために、児童が思わず話し合いたくなる授業が展開できるように工夫をする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	(1)多様な他者と協働する 様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	[学級での様子から] ・他者と関わる機会が少なく、自分の意見を伝えることや友だちの意見に興味をもつことが難しいことがある。 ・集団への所属感が乏しく、自己中心的な思考や行動をしてしまうことがある。 ・集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解しているが、行動に移すことが難しい児童がいる。 ・自分の思いや願いが中心の合意形成を図ろうとすることはできるが、他者の意見を受け入れることが難しい児童がいたり、一部の児童のみで話し合う様子があつたりする。 [行事や他の活動の様子から] ・学校行事に向けて、目標を立て、目標達成のために粘り強く取り組むことに課題がある児童もいる。 ・決まった活動や役割について、自主的・自律的に活動することが難しい児童もいる。	[学級での活動における工夫] ・クラス遊びや学級活動の機会を充実させ、児童同士の関わりを深めることで、学級への帰属意識を高める。 ・当番活動や係活動を通して集団の一員としての意識を高めるとともに、一人一人に役割をもたせることで、学級に貢献する喜びや達成感を味わえるようにする。 ・話し合い活動では、話し方や聞き方のモデルを示し、自分の考えを進んで伝えるときに、友だちの意見を最後まで聞こうとする態度を育てる。 ・学級会や係活動において、自分の役割や責任を理解し、主体的に活動できるようにする。また、一人一人が自分の役割を果たすことで学級全体がより良くなることを実感できるようにする。 [行事や他の活動における工夫] ・行事の前には、めあてを立てる時間を十分に確保する。また、自己や学級全体の取組を振り返る機会を定期的に設けることで、課題や改善点に気づき、次の活動に生かせるようにする。さらに、できたことや成長したことを価値付けることで、意欲の向上につなげる。 ・委員会活動では、児童と担当教員が相談しながら活動内容を検討する。動画や掲示物、校内放送などを活用して全校へ呼び掛けを行うなど、児童が主体的に工夫して活動できるようにする。 ・クラブ活動では、教員と児童が活動内容を検討しながら運営することで、興味・関心をさらに深め、意欲的に活動できるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	(1) 課題の解決に必要な知識・技能を発揮するとともに、地域のよさや特徴を見つめ直し、探究的な学習のよさに気付く。 (2) 地域の実社会・実生活の問題から課題を見だし、その解決に向けて情報を集め、情報を整理したり分析したりすることで自分の考えをもち、理由を明確にしてまとめ、相手や目的に応じて、表現する力を身に付ける。 (3) 主体的・協働的に学習に取り組むとともに、友だちと互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために探究的に学習を進めることを通して、自己の生き方を考えたり、すすんで社会に参画しようとしたりする態度を養う。	[学習方法に関すること] ・タブレットを使って調べると情報量が多く、調べたり、まとめることが難しい。 [知識・技能に関すること] ・単元に基づく概念的知識及び主体的に探究的学習を進める技能を系統的に身に付ける必要がある。 [思考・判断・表現に関すること] ・地域の人材・教材開発に努め、児童の思いや願いに合わせた単元づくりを行っているが、児童が自ら課題を設定する力を意図的に身に付けていく必要がある。 ・友だちと合意形成をしたり、建設的な話し合いをしたりすることが苦手である。	[授業を行う上で留意すること] ・インタビューやアンケートなど、多様な情報収集方法を体験できるようにする。 ・あふれる情報の中から必要な情報を取捨選択し、分析できるように、発達段階に応じた思考ツールを教え、整理・分析能力を養う。 ・探究の学習過程(課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現)が繰り返され、試行する余地のある単元づくりをする。 ・意図的に他教科と関連付けて習得した知識・技能を活用できるようにする。 [学校体制として取り組むこと] ・単元で活用した資料や情報、指導案等は単元ごとにまとめて次の学年に引き継ぐ。 ・授業者が地域理解、教材開発に努め、教材の魅力と児童の興味関心に合わせた単元づくりをする。具体的に、地域巡りや地域の方との交流を通して、児童の実態に合わせて単元開発をする。インタビューするなど、地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・OJTを行い、総合的な学習の時間の進め方について共通理解を図る。